第２回　南部地区街づくり協議会

日時：平成２６年７月７日　午後３時 00 分
場所：天理市役所　４Ｆ　特別会議室

次第

１．　開　会

２．　あいさつ

３．　議事
　　南部地区活性化プロジェクト案について

４．　次回の日程と主な協議内容

５．　閉会

【添付資料】
　資料　南部地区活性化プロジェクト（概要）

南部地区活性化プロジェクト（概要）

基本方針　物産・観光・農業　×（掛ける）
歴史・文化遺産・さとの街づくり

目標　日本を代表する
歴史と里の魅力を活かしたモデル地域に！

短期的プロジェクト

プロジェクト拠点整備

トレイルセンター

・物販の開始
・サイクルスポット整備

○桜井・田原本の物産も合わせてPRし、大和の源流トライアングルの発信拠点化

学生の運営参加

魅力向上計画

魅力づくり　“柳本・朝和”ブランディングによる地域力の増進

○現行イベントの目的を整理し、一体化・共催による魅力向上を図る。
例）・柳灯会の再構築、拡大　・県ムジークフェスト（音楽祭）との連携

○農特産物を活用した**お金が地元に落ちる**仕組みづくり
例）・農産物・ジャムなどを全国へ発送・PR（ふるさと納税の記念品として等）
・天理駅での物産販売と連動した**土産物配送システム**の検討。
・トレイルセンター物販化に伴う朝市の定期開催。

○スポットの高付加価値化
例）・ちゃんちゃん祭を体験・参加できる伝統行事化し、戦艦大和のゆかりとして呉の海上自衛隊と連携することで、大和神社を全国にPRする。
・柳本地区における織田藩のゆかりを整理し、地区の全国認知を高める。

○山の辺の道地域づくり協議会との連携
例）・柿の木オーナー制度推進協力　・植栽計画による**放棄地対策**・景観づくり

協議会連携　天理駅前活性化プロジェクト×南部活性化プロジェクト

例）・事業者を募集し、既存物産のパッケージデザイン等の総合プロデュースによる高付加価値化を行い、天理駅前と連動した販売・PR戦略を実施する。

意見交換

周遊観光

周遊観光　南部地区の魅力をつなぐ周遊観光ルートの検討

○トレイルセンター、柳本駅、**黒塚古墳駐車場**の各周遊拠点から始まる**ターゲット別ルート設定と併せて、案内サイン**を検討する。

○地元住民・商店の協力により、ちょっと日陰で腰かけられる“ひと休みスポット”を検討し、おもてなしPRと**休憩場所の確保**を図る。

南部地区活性化プロジェクト（概要）

中・長期的プロジェクト

プロジェクト拠点整備（案）

既存施設の“道の駅”化

（仮）やまと古墳ステーション

○既存施設を活かした周遊観光拠点として、黒塚古墳関係施設及びコンビニを核とした新しい形態の“道の駅”を検討する。

○駐車場機能 ⇒ 黒塚古墳駐車場
販売機能 ⇒ 既存コンビニ
レスト機能 ⇒ 柳本公園（古墳）
総合案内 ⇒ 黒塚古墳資料館

○古墳～道の駅化施設を一体として見せるためには、動線整備による誘導が必要。

○地元・来訪者の憩いの場として必要な公園機能について検討する。

スポット強化

施設の活用　既存施設における求心力・魅力の向上

○JRまほろば線と連携した駅施設の利用による魅力創出
例）・駅舎の未利用スペースにおける産直コーナーの開設。
⇒“規模ではなく農家との距離”
・柳本駅旧引込み線に古い客車を設置し、南部の案内所機能を。

○空き家を活用した事業展開
例）・空き町屋にレストラン事業を誘致し、地域食材を使った“食”の魅力による集客力の向上を図る。

イベント強化

企業連携　企業との連携強化よる地元活性化策

例）・最新の技術で最古の道の風景を見て回るウェアラブル端末を活用した遠隔観光ガイド
⇒身につけられる小型コンピューターにより、現地で実際の風景と昔の風景を重ねて見せ、スポットの情報をリアルに案内する。

・既存のスマートフォン用観光アプリの活用・発展

・旅行会社と連携したより多くの方が楽しめるプランの提案
⇒ウォーキングをすることが困難な方が、あきらめていた山の辺の道等の観光ができるような“介護旅行”の仕組みづくり。）

・観光商品の開発（天理市×JR東海など）
⇒鉄道会社と連携し、南部へ観光客を呼び込む観光商品を検討する。